

着床前胚染色体異数性検査（PGT-A）

着床前胚染色体構造異常検査（PGT-SR）について

1. PGT-A・PGT-SR とは

体外受精で得られた胚（受精卵）の一部の細胞を採取し、染色体の数や構造に異常がないかを調べる検査です。染色体異常のない可能性が高い胚を選択して移植することで、妊娠・出産につながる可能性を高めることを目的とします。なお、妊娠・出産を保証する検査ではありません。

2. 対象者

【PGT-A】

- ・ 良好胚を複数回移植しても妊娠しない方
- ・ 流産・死産を繰り返している方

【PGT-SR】

- ・ 夫婦のいずれかに均衡型染色体転座などの染色体構造異常がある方

3. 検査の流れ

- ① 採卵・体外受精・培養
- ② 胚盤胞から数個の細胞を採取（胚生検）
- ③ 胚を凍結保存
- ④ 染色体解析
- ⑤ 異常がないと判断された胚を融解・移植

4. 胚移植に用いる胚（胚盤胞）

PGT-A・PGT-SR で染色体異常がないと判定された胚の中から、当院で胚の状態を総合的に評価し、移植に最も適していると判断した胚を1個移植します。なお、移植に適さないと判定された胚であっても、必ずしも妊娠しない、または流産すると決まっているわけではありません。そのような胚しかない場合は、担当医と十分に相談したうえで方針を決定します。

5. 生まれてくる子供の性別に関する情報の取り扱い

検査では性別に関する情報も得られますが、男女の産み分けを目的とした検査ではありません。原則として性別はお知らせしません。

6. 費用

PGT-A・PGT-SR は自費診療です。

新鮮胚：1 胚あたり 82,500 円（税込）

凍結胚：1 胚あたり 110,000 円（税込）

7. 対象者にもたらされる利益および不利益

期待される効果

- ・ 胚移植あたりの妊娠率の向上が期待されます。
- ・ 流産率の低下が期待されます。
- ・ 出産（生児獲得）できる可能性の向上が期待されます。

起こり得る不利益

- ・ 胚生検の影響により、着床不全や流産が起こる可能性があります。
- ・ 検査には約 5～15%の誤判定があると報告されています。
- ・ 検査を実施しても、生児獲得率が必ず向上するとは限りません。
- ・ 本検査は染色体異常を調べる検査であり、判定不能な結果はお伝えできません。

検査の限界

- ・ 染色体異常がないと判定された胚でも、妊娠しない場合や流産する場合があります。
- ・ 本検査では、すべての先天性疾患や遺伝性疾患を調べることはできません。
- ・ 現在までの研究では、お子さんの発達や心理社会面への大きな影響は報告されていませんが、長期的な影響については十分に明らかになっていません。

8. 遺伝カウンセリング

検査前および検査結果説明時に遺伝カウンセリングを行います。ご希望があれば追加で受けることもできます。

9. 個人情報の取り扱い

学会へ必要な情報を匿名化して報告します。個人が特定されることはありません。

10. 同意

検査を受けるかどうかはご夫婦の自由な意思で決定していただきます。十分にご理解いただいたうえで同意書にご署名ください。同意は検査開始前であれば撤回できます。

11. 日本産科婦人科学会への報告義務

日本産科婦人科学会への報告義務が存在し、同報告には必ずご協力いただく必要がございます。